



おくすり相談 Q&A

後発医薬品（ジェネリック医薬品）の 変更の可否についてご存知ですか？

先発医薬品の特許が切れ、後発品メーカーが同じ成分を使用して作った医薬品をジェネリック医薬品と呼びます。ジェネリック医薬品の値段はさまざまですが、先発品より3～5割安いといわれています。ご存知の方も多いかと思いますが、2006年4月より、院外処方せんの様式も変更になり、処方せんに【後発医薬品（ジェネリック医薬品）への変更可否】を記入する欄ができました。（当院の院外処方せんの書式も変

薬剤師 佐藤 潔史



更済みです。お気づきでない患者さんは、ご確認ください）その欄に処方医が署名押印すれば、患者さんの意思で先発品またはジェネリック医薬品を選択することができるようになりました。ご希望の患者さんは主治医にご相談ください。

【ご注意】

- ・処方医の署名・押印がないときは、ジェネリック医薬品には変更できません。
- ・まだジェネリック医薬品がない薬剤もあります。
- ・ジェネリック医薬品は、薬の成分は同じですが、医薬品の製法などが先発品とは違います。

アラカルト

「市民救命士」をご存知ですか？

救命には、傷病者が発生したとき、その付近に居合わせた人が適切な応急手当を速やかに行うことが有効です。そこで、消防局などの行政が中心となり、心臓マッサージや人工呼吸などの応急手当を的確に行える人（市民救命士）の養成を目的に、心肺蘇生や止血法を中心とした講習が開催されています。この活動の一層の普及を図るためには、行政のみならず、地域に根ざした応急手当の普及活動を定着させ、応急手当の輪を広げていく必要があります。

例えば、アメリカでは日本と比べて、かなりの割合で心肺蘇生の技術を市民が持っており、実際に見ず知らずの人にも心肺蘇生をしています。日本では2～3%といわれる救命率も、アメリカでは10倍近くあります。つまり、高い救命率を誇る救急システムを支えているのは、市民

薬剤師 櫻田 和男



が行う応急手当の充実ということになります。

アメリカの救急隊のように医者並みの処置が許されていても、救急隊が到着するまでに心肺蘇生などの救命処置がなされているか否かで、救命の可能性が大きく変わってくるのです。日本でも特に救急救命士制度が始まって以来、全国各地で市民を対象に講習が盛んに行われるようになり、実際の救命事案の多くは市民が心肺蘇生の処置をしていた場合といわれています。

119番通報から救急車が到着するまでの時間は、平均6分です。一方で、心臓停止から3分を過ぎると死亡率は50%といわれています。

もし皆さんが応急手当を必要とする現場に居合わせた場合、そして的確な応急手当の技術を持っていたとしたら、その人を救うことができるのは、あなたかもしれません。